

E-16 農家主婦の家事労働意識について

奈良女大家政 ○野口孝子 足田洋子 近藤公夫 北村君

目的 主として主婦の役目とされていた家事労働は、最近、女性の職場進出や家庭用機器類等の普及によりその意識が変化してきていると思われる。そこでこの調査は家事労働の担当者である主婦が、近頃ほどの様な意識でそれを捕捉しているかを知る為に行ったものである。

対象 奈良市近郊の農村地帯（天理・郡山市 主として米・蔬菜・果実類）の農家の主婦 20 / 名

方法 個人面接調査

内容 家事労働についての考え（家事の負担・満足感・意義等）・家事労働時間・

役割分担等

時期 昭和45年12月16日～21日、46年1月19日～27日

結果 1. 対象主婦の平均年齢は42.0才で30・40代が80%である。

2. 1日平均労働時間は11時間30分で、生産・家事労働は約1/2ずつである。
3. 生産労働に従事している事により、家事に十分な時間がかけられず、もっと家事の標準を高くしたいとの声が多いが、なかには家事の負担を訴えている者もある。
4. 生産労働に従事している者の95%は家事労働は大切であると称している。
5. 家事労働の担当者である事には殆んどが満足しており、それは家族が喜んでくれる事や、主婦としてのつとめだという理由からである。